

# 宇都宮市の温室効果ガス排出量について 2020（令和2）年度（暫定版）

## 1 温室効果ガス排出量の算定方法について

温室効果ガス排出量は、直接大気を測定するのではなく、統計データなどにに基づき排出量を推計しています。

推計には国等が発表する統計データを使用しますが、2年遅れで公表されるため、最新の推計データが2020（令和2）年度の温室効果ガス排出量となっています。

温室効果ガスの種類は、二酸化炭素（以下「CO2」という。）、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素等がありますが、その大部分が二酸化炭素であるため、推計する際は、「CO2」と「その他ガス」として算定しています。

また、CO2については、「地方公共団体における施策の計画的な推進のための手引き（平成26年2月、環境省）」で、「産業」「民生（業務）」「民生（家庭）」「運輸」「工業プロセス」「廃棄物」の6部門に分けて算定することとなっています。

但し、「工業プロセス」は、セメント、生石灰、ソーダ石灰等の製造に伴う排出部門であり、本市内では当該部門に相当する事業者は非常に少ないことから、本市においては、「工業プロセス」を除いた5部門で推計を行うこととしています。

表1 宇都宮市における温室効果ガス排出量算定対象とする部門

部門	活動内容等
産業部門	製造業、建設業、鉱業、農業における電気や燃料の消費
民生（家庭）部門	家庭（自動車を除く）における電気や燃料の消費
民生（業務）部門	事業所ビル、飲食店、学校など（自動車を除く）における電気や燃料の消費
運輸部門	自動車（家庭用、事業用）、鉄道による電気や燃料の消費
廃棄物部門	家庭系ごみ、事業系ごみの処理

## 2 宇都宮市の温室効果ガス排出量の推移

宇都宮市における2020（令和2）年度の温室効果ガス排出量は367.9万t-CO2でした。

これは、2019（令和元）年度と比べ4.1%（15.7万t-CO2）の減少となっています。また、基準年の2013（平成25）年度と比べると12.0%（50.1万t-CO2）の減少となりました。

2019（令和元）年度と比べて、温室効果ガス排出量が減少した主な要因は産業部門が6.2%（6.6万t-CO2）、民生（業務）部門が6.1%（4.9万t-CO2）減少したことが大きく影響したものと考えられます。また、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動等が停滞したことも、少なからず影響したものと推測されます。

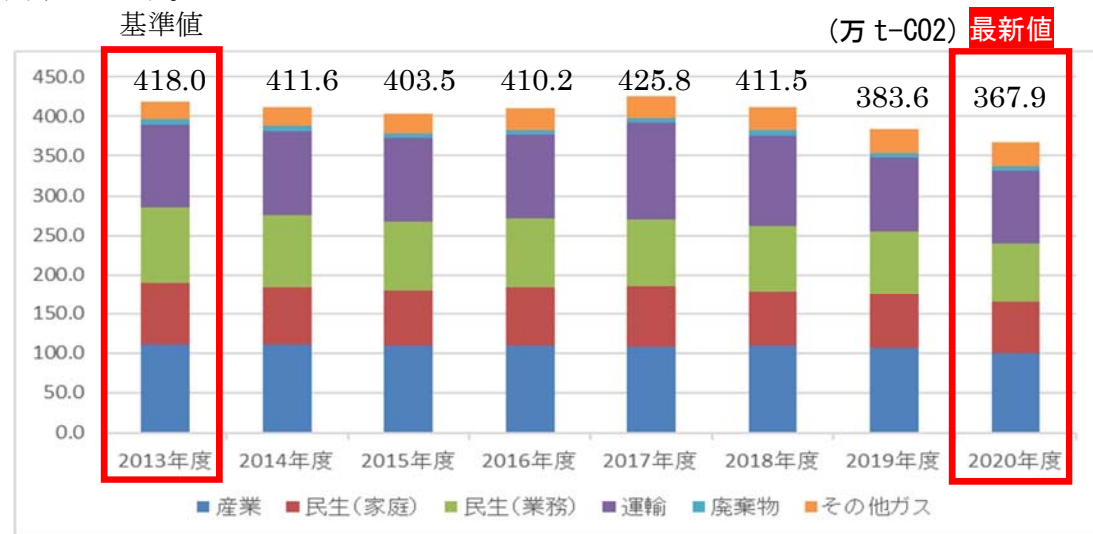


図1 宇都宮市の温室効果ガス排出量の推移

表2 宇都宮市の温室効果ガス排出量の推移

部門	基準値								最新値
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (暫定値)	
産業	110.9	110.8	108.7	109.3	107.5	109.2	106.3	99.7	
民生(家庭)	78.3	73.5	71.8	75.6	77.7	69.0	68.5	64.7	
民生(業務)	96.2	92.0	86.8	86.9	85.3	83.3	80.9	76.0	
運輸	104.1	105.4	105.7	105.7	121.5	114.8	92.2	90.8	
廃棄物	6.5	6.1	5.3	5.5	5.9	6.3	6.1	6.1	
その他ガス	22.0	23.8	25.2	27.2	27.9	28.8	29.7	30.6	
合計	418.0	411.6	403.5	410.2	425.8	411.5	383.6	367.9	

※国や県のデータの最新値は2年遅れで公表、最新値（2020年度）は暫定値となっている。

## 3 宇都宮市と全国の部門別二酸化炭素排出量

宇都宮市の二酸化炭素排出量の特徴を把握するため全国の構成比と比較すると、宇都宮市の運輸部門は、全国より6ポイント高い割合を示しています。これは栃木県が一人当たりの自家用車保有率全国第3位であり県内最大の人口を占める宇都宮市でも移動手段のほとんどを自動車に依存していることが原因の一つとして挙げられます。

2020（令和2）年度においては、運輸部門からの温室効果ガス排出量は減少しましたが、依然として自動車保有台数は増加傾向にあることから、電気自動車や自転車など環境にやさしい乗り物への転換や、自動車より一回の輸送で人や物をより多く運ぶことができる公共交通機関の利用など、市民一人一人がより一層、環境にやさしい移動方法について意識し行動をしていくことが必要になります。

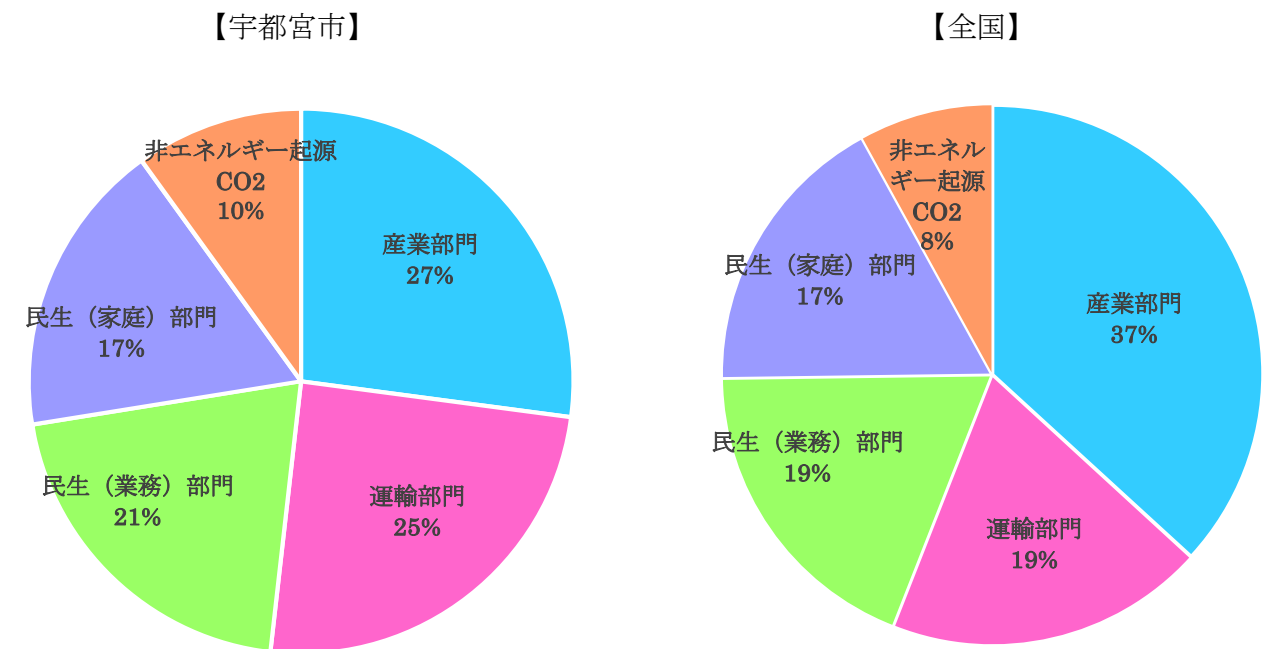


図2 宇都宮市と全国の温室効果ガス排出量の比較